



# 森林ふれあい情報

平成25年12月  
第29号

中部森林管理局木曾森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

## 森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月4日(金)・5日(土)の2日間、長野県塩尻市において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」(連携推進会議実行委員会主催)を開催しました。

この会議は、中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うことでボランティア団体等の更なる資質の向上を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に開催したもので、17団体と局署の職員、併せて総勢84名が参加しました。

1日目は、塩尻市片丘の市有林において、14の参加団体と局署職員等が参加し、見識を広げる事を目的に、「簡易索道を用いた集材」(飯田市で薪ストーブの燃料を自ら収集している市民グループ「薪人」)や偏心木の伐採実演(朝日村を拠点に森林整備や炭焼き、木工教室等を行う、大工、家具職人、林業技術者などがそろう「一期会」)の実演を行い、意見交換や質問に対する追加の説明を行う等充実した内容となり、参加者の関心の高さがうかがえました。



簡易索張りの説明をする「薪人」



伐採実演「一期会」



1日目参加者(森林ボランティア団体等)の皆さん



2日目の「森・ふれあいフェスタ」は、不安定な天候でしたが、塩尻市の「道の駅小坂田公園」にて開催することができました。

開会式には、地元小口塩尻市長より挨拶を頂き、続いて、塩尻市でガンバル人達を応援するキャラクター「げんすけ」君（塩尻市を中心に環境教育や松本平に関わる地域コーディネート事業、様々な体験活動を通して子どもたちを育成している、持続可能な松本平創造カンパニー「わおん♪」）にも登場していただきました。また、長野県緑の基金の協力を得て、初めて参加者に募金への協力を呼びかけました。

悪天候の予報が災いしたのか親子連れで訪れる方が少なかったのが残念ですが、延べ370名の市民、家族づれの方々に来場して頂き、12のブース（竹とんぼ作り、竹笛作り、丸太切りと小木工、ドブスアート、かんなくずプール、薪割り体験、ツリークライミング実演など）で体験を楽しんだり感心したりしていました。来場者からは「毎年この公園で開催してほしい」と、大変うれしい感想も頂きました。

今回も参加団体の情報や意見交換をし、また市民の方々と交流を深める事ができた2日間となりました。

2日間の反省点はいろいろありますが、今後の活動に生かすこととし、更に皆さんと共に盛り上げていく予定です。



ツリークライミングの実演  
「WITH」松岡秀治氏



ブリッジ積木とげんすけ



薪割り体験



親子で木エクラフト



2日目参加者(森林ボランティア団体等)の皆さん



## 木祖村・日進市合同育樹祭

10月19日、20日に、木祖村と愛知県日進市の合同育樹祭(木曾森林管理署共催)が木祖村奥木曾湖際の「平成日進市の森林」(塩沢国有林)で行われ、両市村の職員や中学生、一般参加者ら130名が平成10年度に植栽された箇所、11の班に分かれて除伐やつる切り等の作業に汗を流しました。

水源の森を守り、上下流域に住む人が交流する催しで今回で21回目となります。

当センターからは村からの依頼で、ヘルメット、手ノコの貸し出しと安全作業を指導するため参加しました。



木祖中青木諒太郎君

日進東中林大雄君



枝打ち作業



開会式の様子



栗屋徳也村長の挨拶

開会式では、栗屋徳也村長が「友好自治体のシンボルの森を通じて、今後も息の長い交流を」と挨拶し、「みどりの少年団」の木祖中学校3年生・青木諒太郎君が「木曾川源流に住む私たちは下流に住む日進市の人たちと手をつなぎ、健康で豊かな社会を目指す」、日進市の日進東中学校3年生・林大雄君も「木がたくましく成長してほしい、力を合わせて緑を広げたい」と宣誓しました。



生徒の整備作業



日進東中・木祖中生徒



## 松本市立本郷小学校の森林学習

松本市立本郷小学校が4年生の児童たちを対象に「地域の森林から学ぶ体験学習」と題し、10月15日に赤沢自然休養林において森林教室を実施しました。当センターから3名が木曽署職員3名とともにその指導に当たりました。

児童たちは午前9時出発の森林鉄道に乗車し、その後、林内を散策し木曾五木について説明を受けメモを取ったり、ヒノキ大樹の太さを計測したり、木の葉を集める等、森林について学習し、最後に森林鉄道記念館と森林資料館を見学しました。



森林鉄道に乗る児童



林内で学習



森林資料館を見学

## 史跡の森カザグルマ自生地の整備

城山国有林の「城山史跡の森」にはササユリをはじめとして長野県絶滅危惧種に指定されたカザグルマ等の貴重な植物が自生しています。

カザグルマはつる性の低木で林縁部の日当たりのいい場所を好み、5月下旬から6月上旬に白や淡紫色の大きめで可憐な花を多数付けます。

11月5日、カザグルマ自生地において、「城山史跡の森倶楽部」の会員の皆さんと共に、自生地に繁茂するクズを刈り払い、根株を薬剤処理する等の整備を行いました。

これからもたくさんの花が咲くことを期待しています。



カザグルマ



自生地の整備



## 史跡の森小鳥の巣箱掛け及び ササユリ生育地整備

12月9日、城山史跡の森倶楽部から小鳥の巣箱掛け作業とササユリ生育地整備の技術指導要請を受け、当センターの4名と地元の首席森林官が指導に当たりました。

作業は、城山史跡の森倶楽部のほか企業ボランティアの皆さんなど、総勢17名が参加して実施しました。

「城山史跡の森」はセンターの活動拠点でもあり、JR木曾福島駅もみじがおかから足湯-山村代官屋敷等を経由して紅葉ヶ丘まで約2kmとアクセスに恵まれ、街場に近いとともに昔の山城城址もある貴重な天然林で、地域の方々の散策や、軽登山で訪れるお客様も多い場所です。

小鳥の巣箱掛けについては平成21年度から毎年実施しており、ターゲットの鳥類はシジュウカラなどのカラ類に設定しています。

設置してあった巣箱35箱を下ろし、今年度も地元の方が丹念に作成してくれた真新しい巣箱30箱と再利用のもの8箱を合わせ38箱設置しました。

下ろした巣箱の利用状況は、35箱のうち10箱にコケなどで営巣・利用した形跡があり、今年掛けた巣箱もより多く利用してもらうよう、掛ける場所や高さを工夫して作業を行ったところです。



設置作業



参加者で記念撮影

また、ここに自生するササユリは、長野県のレッドデータブックにも準絶滅危惧種に指定されており、当センターでも保護増殖活動に努めてきたところです。

今回の作業は、種の保護と保存を目的として、昨年除伐等により整備した箇所を林床整備し、繁殖のための種の採り蒔きを実施しました。



ササユリ



林床整備作業



播種作業